



☀️ 「2025年ふりかえり展」を開催しています

当館は、多くの方々の協力のもとで昨年4月に正式開館を迎え、ようやく新しい年を迎えることができました。そこで、昨年の活動の紹介として「2025年ふりかえり展」を2階企画展示室で3月24日まで開催することにしました。1月の化石プログラム初級では、この企画展の設営作業を行いました。全国の研究者による最新の研究の紹介や博物館用に作っていただいたものの展示、昨年の調査で採集した化石・岩石や化石プログラムで作った骨格標本・作品なども展示していますので、機会がありましたらぜひお越し下さい。



写真1 「2025年ふりかえり展」を開催している企画展示室。去年作った標本などを展示。

☀️ アンモナイトなどの殻の特徴を調べました

1月の化石プログラム中級では、アンモナイトやオウムガイの殻を測って、巻き方の規則を調べる実習を行いました。難しい内容でしたが、分度器や物差しを使って計測に挑戦してくれていました。



写真2 化石プログラムで「2025年ふりかえり展」の設営を行っているときの様子。

☀️ 平良の海岸で地層などを観察しました

2月の化石プログラムでは、平良集落北部にある海岸で地層や岩石、化石などの観察を行いました。白亜紀の海底地滑りでできた構造や生物の巣穴の化石、はるか南方から漂流してきたオウムガイの殻、企画展で名前を募集している謎の構造など、様々なものを観察することができました。



写真3 平良の海岸で岩石や漂着物を観察しながら歩く子どもたち。

☀️ 角竜類の論文が出版されました

2月7日、東京大学・福井県立大学・我孫子市鳥の博物館・甌ミュージアム・国立科学博物館による共同研究の成果をまとめた論文が米国の学術誌に掲載されました。トリケラトプスなどの植物食恐竜「角竜類」の鼻全体の内部構造を初めて復元した研究で、石川学芸員が学生時代に北米での調査で集めたデータなどから、鳥類や哺乳類の鼻の中にある体温調節に使われる器官が角竜類にもあることなどが初めて明らかになりました。



写真4 ソルトレイクシティの博物館で角竜類の観察をしているときの石川学芸員(2019年)。